

# 単元名 「じどう車カルタ大会をしよう

## ～事柄の順序に沿って簡単な構成を考えて書く～

第1学年 C読むこと (ア・ウ)

言語活動例 C・ア

### ◆本実践の概要

本実践では、児童がはしご車の「つくり」を探す際に、3つの学習環境を用意することで、個々に学習方法(動画・写真・本)を選択できるようにした。友達と一緒に動画を見ながら探す姿、一人で黙々と本から探す姿など、教室の内外を自由に動きながら、「つくり」を探すために、最適な方法を選択する姿が見られた。

児童は、自ら探した「つくり」とはしご車の「しごと」との関連を確かめる中で、事柄の順序やつながりを意識しながら、内容を捉えることができた。

### 1 単元の目標

- (1) 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。[知識及び技能](2)ア
- (2) 事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。[思考力、判断力、表現力等]C(1)ア
- (3) 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。 [思考力、判断力、表現力等]C(1)ウ
- (4) カルタカードを作るために、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えることができる。  
[思考力、判断力、表現力等]B(1)イ
- (5) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。  
[学びに向かう力、人間性等]

### 2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 (2)ア	①「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 (C(1)ア) ②「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 (C(1)ウ) ③「書くこと」において、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。 (B(1)イ)	①進んで、事柄の順序などを考えながら内容の大体をとらえ、学習の見通しをもって、自分が説明するときに生かしたいことを見付けようとしている。 ②進んで、事柄の順序に沿って簡単な構成を考え、今までの学習を生かして、自動車カルタカードを書こうとしている。

\*本単元では、第1次では[思考力、判断力、表現力等]C(1)ア

第2次では[思考力、判断力、表現力等]B(1)イを特に重点的に指導し評価する。

3 指導と評価の計画(B「書くこと」85 時間中の 5 時間 C「読むこと」91 時間中の7時間)

第 1 次 じどう車くらの文のひみつを見つけよう

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	①さまざまなミニカーで遊ぶ。 ②範読を聞き、出てきた自動車や、説明されていたことについて確かめ、学習課題を設定する。 ③「自動車カルタ大会」を行うことを知り学習計画を考える。	①さまざまなミニカーに触れさせ、自動車について興味・関心を持たせる。また、遊んだミニカーについて話させることで、ミニカーの「しごと」や「つくり」への意識をもたせる。 ②挿絵を参考にさせながら、出てきた自動車の種類を確認させ、「しごと」だけでなく、「つくり」についても説明されていることを押さえ、学習課題を設定させる。 ③「自動車カルタ」を教師が用意し、同様の活動を行うためには、どのような準備が必要か考えさせる。	[主体的に学習に取り組む態度①] 発言・記述 ・さまざまな自動車には、それぞれ「しごと」と「つくり」があることに興味をもち、学習課題に進んで取り組もうとしているかの確認。
2	④文章全体の構成を捉える問いの文や出てきた自動車を確かめ、内容の大体を捉える。	④問いが二つあることを確かめさせる。また三つの事例を挙げて答えが書かれていることを押さえる。	[知識・技能①] 発言・記述 ・「しごと」に合った「つくり」が説明されていることに気づいているかの確認。
3 ～ 5	⑤それぞれの自動車の「しごと」と「つくり」を読み取り、ノートにまとめる。	⑤なぜその「つくり」になっているのか、「しごと」と関連付けて考えさせる。	[思考・判断・表現②] 発言・記述 ・それぞれの自動車の説明を読み、その「しごと」と「つくり」を捉えているかの確認。
6	⑥どんな順番で自動車が登場しているかを話し合う。	⑥身近なものから順に登場していることを押さえる。 ・事例ごとに読んで終わるのではなく、文章全体を捉えることで、今後の説明文の読み方指導につなげていきたい。	[思考・判断・表現①] 発言・記述 ・事柄の順序について考える活動を通して、構成の意図を捉えているかの確認。
7 (本時)	⑦はしご車の「しごと」と「つくり」を考え、ノートにまとめる。	⑦これまでに登場した自動車の説明で、使えるような言葉をヒントにしつつ、「しごと」に合った「つくり」を選ばせる。 ・「しごと」と「つくり」が合っていない文章を用意し、違和感に気付かせる。	[思考・判断・表現①] 発言・記述 ・はしご車の資料から、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えているかの確認。  [主体的に学習に取り組む態度①] 発言・記述 ・説明における順序の重要性を知り、自分が説明するときにかかそうとしているかの確認。

第 2 次 じどう車カルタ大会をしよう

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	①自動車カルタ大会について確認する。 ②「自動車カルタカード」に書くことを話し合う。 ③「自動車カルタカード」の作り方を確かめ学習の見通しを持つ。	①もう一度教師が模範を見せ、イメージをもたせる。 ②どんなことを書いたらよいか、前単元の学習と関連させて考えさせる。 ③「つくり」と「しごと」は自動車カルタカードに書かせ、写真や自動車名は「オクリンク」で作成することを伝える。	[主体的に学習に取り組む態度①] 発言・記述 ・「自動車カルタカード」の作り方を話し合うことを通して、学習の見通しをもとうとしているかの確認。

2	<p>④本やインターネットを使って紹介したい自動車の「しごと」について調べ、分かったことを書く。</p> <p>⑤調べたことをもとに、紹介したい自動車の「しごと」を文にまとめる。</p>	<p>④説明に必要だと思ったことを抜き書きするように指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書室やインターネットを使えるようにし、情報を得るためにはどうすればよいのか各自に考えさせる。</li> </ul> <p>⑤どのように文にまとめればよいか、「じどう車くらべ」の学習を振り返るなどして、確かめさせる。</p>	<p>[知識・技能①] 発言・記述</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「しごと」と「つくり」の関連を考えているかの確認。</li> </ul> <p>[思考・判断・表現③] 発言・記述</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 紹介したい自動車の「つくり」について情報を集め、「しごと」に合わせた「つくり」を選び、伝えたいことを明確にしているかの確認。</li> </ul>
3	<p>⑤本やインターネットを使って紹介したい自動車の「つくり」について調べ、分かったことを書く。</p> <p>⑦前時でまとめた「しごと」の文を読み直し、それに合わせた「つくり」を選ぶ。</p>	<p>⑥説明に必要だと思ったことを抜き書きするように指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図書室やインターネットを使えるようにし、情報を得るためにはどうすればよいのか各自に考えさせる。</li> </ul> <p>⑦「はしご車」の学習を振り返るなどして、「しごと」に合わせた「つくり」を選ぶことについて想起させる。</p>	<p>[思考・判断・表現③] 発言・記述</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調べたことをもとに、「しごと」と「つくり」の順で「自動車カルタカード」を書いているかの確認。</li> </ul>
4	<p>⑧前時までの学習をもとに、「自動車カルタカード」を書く。</p> <p>⑨オクリンクに写真を取り込み、自動車名を手書き入力する。</p> <p>⑩小グループで、順番や内容に間違いがないか確認する。</p>	<p>⑧「しごと」と「つくり」は違う内容であることを押さえ、まとまりが分かるように書き表し方を工夫させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「じどう車くらべ」で使われていた「そのために」という接続語でつなげさせる。</li> </ul>	<p>[主体的に学習に取り組む態度②] 発言・記述</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事柄の順序に沿って、簡単な構成を考え、今までの学習を生かして、自動車カルタカードを書こうとしているかの確認。</li> </ul>
5	<p>⑪「自動車カルタ大会」を行い、感想を伝え合う。</p> <p>⑫学習を振り返り、自分の文章のよいところを見付けて書く。</p>	<p>⑪オクリンクで作成したものを、大型提示装置で映し、「つくり」が伝わりやすくなるようにズーム機能を使わせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ カルタを取り終えた後、大型提示装置で写真を写し出し、「つくり」がどこの部分なのか確認させる。</li> </ul> <p>⑫伝えてもらった感想を振り返らせ、自分の文章のよさを見付けられるようにする。</p>	

#### 4 本時の指導

(1) 目標 はしご車の資料から、その「しごと」と「つくり」を関連させて捉えることができる。

(2) 評価規準 はしご車の資料から、その「しごと」と「つくり」を関連させて内容を捉えている。

【思考・判断・表現①】

(3) 本時の展開

展 開	学習活動及び内容 ・予想される児童の反応	・指導上の留意点 ○発問や指示	評価について
つ か む  5 分	<p>1 「はしご車の映像」を通し、本時の学習活動の見通しを持ち、めあてを確かめる。</p> <div data-bbox="280 459 1024 573" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>めあて 「しごととつくりについてかんがえる。」</p> </div>	<p>・ 前時までの学習から、映像を見る観点を与えてから見させる。</p>	
考 え る  20 分	<p>2 「はしご車」の「しごと」について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高いところの人を助けるしごとです。</li> <li>・ 人を助けるしごとです。</li> <li>・ 高いところの火を消すしごとです。</li> <li>・ 火を消すしごとです。</li> </ul> <p>3 「はしご車」の「つくり」について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 長いはしごがついています。</li> <li>・ 伸び縮みするはしごがついています。</li> <li>・ 車が倒れないように、丈夫な足が付いています。</li> <li>・ はしごの先にかごが付いています。</li> <li>・ かごにホースが付いています。</li> <li>・ 車が赤色です。</li> <li>・ タイヤが6つ付いています。</li> </ul>	<p>○「はしご車はどんなしごとをしていましたか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「人を助けるしごと」「火を消すしごと」などの意見も尊重しつつ、はしご車にしか出来ない、高いところのしごとに着目させたい。</li> </ul> <p>○「はしご車はどんなつくりになっていますか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 動画を視聴できる場所、本を見ることができるところを用意し、好きな場所からはしご車のつくりを探させる。</li> <li>・ 「高いところ」のしごとをするため以外の「つくり」を捉えている児童の意見も多く取り入れ、次の活動につなげたい。</li> </ul>	<p>『教室の内外を自由に動きながら、「つくり」を探すために、最適な方法を選択する姿』への手立て</p> <p>○学習環境の工夫</p>
深 め る  15 分	<p>4 教師が作成した「はしご車」の説明の文章について話し合う。</p> <p>(1の反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 色は関係ないと思います。</li> <li>・ タイヤは関係ないと思います。</li> </ul> <p>(2の反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「そのために」という言葉は2ついらなないと思います。</li> <li>・ 「そのために」という意味に合っていない。</li> </ul> <p>5 話し合った結果から、「はしご車」の正</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1「しごと」と「つくり」が関連していない文章</li> <li>2「そのために」という接続語が2つ使われてしまっている文章を用意し、違和感に気付かせる。</li> <li>・ 「オクリンク」を用いて、一度に全文を見せるのではなく、文のまとまりごとに見せることで、理解しやすくする。</li> </ul> <p>○「しごととつくりがっている文章を考えましょう。」</p>	<p>[思考・判断・表現 ①] 発言・記述 ・はしご車の資料から、その「しごと」と「つくり」を捉えることができる。</p>

	<p>しい説明文を、教師とともに作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高いところの「しごと」をするための「つくり」を選ばばいいと思います。</li> </ul> <p>6 適用問題に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 板書から、適切なものを抽出し、「はしご車」の適切な文章を見童と共に完成させる。</li> <li>・ 選択肢から選ぶだけの問題を作り、見童が理解できているのか確認する。</li> </ul>	<p>※「書くこと」の評価は第2次で行うため、ここでは見童に書かせる活動は行わない。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>まとめ</p> <p>「しごとにあうつくりをえらぶ。」</p> </div>		<p>○「今日学んだことをふりかえり、自動車カルタカードにいかしましょう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 正しい説明の仕方をまとめ、「自動車カルタカード」に活用できることを押さえ、意欲付けていきたい。</li> </ul>	
<p>ふりかえる</p> <p>5分</p>	<p>7 本時の振り返りを行う。</p>		

### 5 実践を振り返って（個別最適な学びと協働的な学びについて）

本時においては、(1)つくりを捉える活動で、単元を通しては、(2)小松製作所見学(3)カルタカード作りの場において、個別最適な学びと協働的な学びの視点を取り入れて指導をした。

(1)のつくりを捉える活動では、はしご車のつくりを捉える方法として、動画・本・写真の3つの環境及び方法を見童に与えた。3つの活動の場を設定することによって、見童が自ら活動内容を選択することができ、見童自身がどのように学習を進めていくことが効果的であるのかを考えながら取り組むことをねらった。この「学習の個性化」は、見童の興味・関心に応じて学習を深め、広げていくことにつながると考える。実際の場面では、最初は、一番興味のある動画コーナーに多くの見童が集まったが、動画を視聴していくうちに、自身の現在の学習状況や能力等では処理しきれないほどの情報であると感じた見童が別のコーナーへ移動し、効率的に学習を進めている姿も見られた。このように、見童自身に自ら選択できる機会を与えることで、自己調整しながら学習を進めることができ、より深い学びにつなげることができた。



(2)小松製作所見学では、見童同士の枠を超えた「協働的な学び」をねらって実施した。見童同士だけではなく、地域の方々をはじめ多様な他者と協働しながら、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、持続可能な社会の創り手となるようにこの活動を取り入れた。人と関わりながら学び、その学びを通じて、自分の存在が認められることや、自分の活動によって、何かを変えたり、社会をよりよくできたりすることなどの実感につながったと考える。

(3)カルタカード作りの活動では、様々な図書館で自動車の本を借りてきたり、インターネットで適切なサイトを用意したりして、児童の興味・関心を引く自動車の選択肢を用意した。他の人が知らないような自動車をインターネットで見付けてまとめている児童や、身の回りで見かけるような自動車を本で調べてまとめている児童など、自己の興味関心やこれまでの学習経験や学習状況に応じて、自分で学習方法等を選択する姿が見られた。その自動車を選ぶまでの思考の過程は完全に把握できるものではないが、その選択は、その児童にとって最適な選択であり、最適な選択ができた児童は、自ずと主体的に調べ学習を進めている様子が見られた。

個別最適な学びと協働的な学びには、教師の指導能力の向上が不可欠であると感じた。カリキュラムマネジメントや児童理解、教材の把握など、多くのことが教員に求められる。しかし、学校教育が個々の家庭の経済状況等に左右されることなく、児童に必要な力を育むために必要な視点であると感じた。これからも、全ての児童の可能性を引き出すような教育に尽力していきたい。

## 6 評価の実際

[思考・判断・表現①]  
「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。(C(1)ア)

[思考・判断・表現①]は、適用問題にて評価した。

<p>①</p> 	<p>はしご車は、火じのときたかいたころの火をけすしごとをしています。</p>	<p>②</p>	<p>③</p> <p>そのために、</p>	<p>にげおくれた人をのせるためのかごが、はしごのさきについています。</p>
<p>④</p>	<p>⑤</p> <p>ながいはしごが、のびたりうごいたりするようにつくってあります。</p>	<p>⑥</p>	<p>⑦</p> <p>火をけすためのホイールが、かごのさきについています。</p>	

ここでは、ミライシード「オクリンク」にて5枚のカードをランダムで配り、適切に並び替えたり、不必要なカードを消したりする活動を行った。事柄の順序を捉えることはもちろんだが、次時の「書くこと」活動につなげるためにも、しごとに合ったつくりを捉えさせるという視点も取り入れた。青色のつくりカードは全てはしご車についてのカードであるが、「たかいたころの火をけす」という赤色のしごとカードに合うのは、④と⑤のカードである。そこで、①→②→青色カードの順番で並べることができている児童を「おおむね満足できる」状況(B)と評価した。

一方、適切に並べ替えることができなかった児童を「努力を要する」状況(C)とした。また、①→②→③を含む青色カードを選んでいる児童には次時の「書くこと」の活動において支援が必要であると考えられるので、個別指導を行った。

本学級の実態としては、在籍18名中(B)と評価した児童18名(C)と評価した児童0名という実態だった。実際、次時の「カルタカード」作りの場面においても、事柄の順序を捉え、適切に文章を書くことができていた。